

かわむら **こども** クリニック NEWS

Volume 26 No 2

295号

平成30年 2月 6日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255

HOME PAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

インフルエンザ雑感 -2018-

院長

今シーズンはA型とB型が同時に流行し、過去最悪と言われています。例年と違って、周囲では8月に保育所、9月には小学校でA型の集団感染がありました。世界的にも大流行していますが、その理由は定かではありません。今月号では、インフルエンザについて、改めて辛口で感じたことを書いてみます。

さて、「隠れインフルエンザ」がマスコミを賑わし話題になっています。いかにも特別と思われがちですが、目新しいことではありません。院長は新型インフルエンザ流行時、「医者はずいぶんインフルエンザにかからない」の疑問の元、感染の研究を行いました。2009年9月から6ヶ月間、小児科18医療機関、医師スタッフ合わせて140人でウイルス分離と抗体価を測定し検討しました。その結果、全体の約20%が不顕性感染、約50%が軽症感染という結論に至りました。新型インフルエンザでさえ、軽症感染が数多く存在することを証明したものでした。この研究により仙台市医師会学術奨励賞を受賞したのを知っている人も多いでしょう。「隠れインフルエンザ」と騒がれば騒がれるほど不安になり、軽症者が検査をするので見つかる数が増えているだけなのです。

さて話は変わりますが、親御さんがインフルエンザで受診した時、何処で待たされているでしょうか。当院ではインフルエンザを疑われる場合には、全員隔離扱いをします。隔離室で待ってもらい、患者さんが重なる場合には、レントゲン室などで隔離します。さらに自家用車で来院者には薬局の協力で、車まで薬を届けています。この取り組みは完全ではないにしても、小児科医が感染症の専門家という証拠です。インフルエンザ流行時に同じ空間で待たせるのは、小児科医には理解できません。

インフルエンザでは、通常欠席者が20%超えると学級閉鎖の措置が取られます。基準は30人クラスでの目安は欠席者が6人ですが、ところが10人でも学級閉鎖にならないことがあります。その理由はインフルエンザが5人で、カゼが5人だからということです。この理由のほとんどは、迅速検

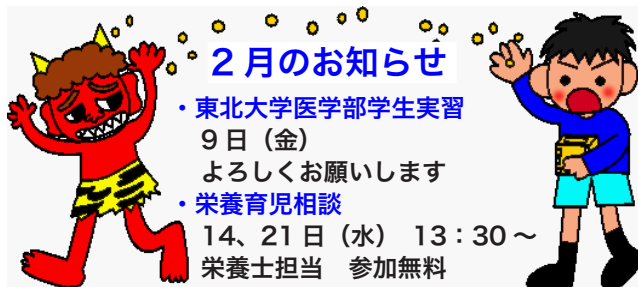
査に頼りすぎるからです。昔流の集団カゼという考え方をすれば、全てインフルエンザに決まっているのです。検査は必ずしもインフルエンザという病気を否定するものではなく、検査が陰性と捉えることが重要なのです。もし残りの5人がインフルエンザでないとしたなら、集団感染を起こす何か未知のウイルスによる感染症というSFの世界になってしまいます。学級閉鎖は、病気に罹患していない子どもたちを感染症から守るための措置です。私が校医をしている小学校では、20%を超える欠席者がいれば迷わず学級閉鎖にすることにしています。半数を超える子どもが欠席しているにもかかわらず、何も対応しないのは、管理者としての責任を放棄していると思われても仕方ありません。

次の話題は、口を酸っぱくして言っている「検査してもらって下さい」です。これが如何に理不尽なのかをもう一度考えてみましょう。検査の指示は医師の裁量権であること。もう一つは、子どもに痛い思いをさせる権利は誰にもないことです。「検査してもらって下さい」と言われた保護者は、集団の手前しなくてはいけないと感じてしまうものです。「発熱して1時間では検査は陽性にならない」と言っても、「検査します」と言う保護者も理解できません。検査は病気で辛い思いをしている患者を楽にするためのもので、本人のためであることを理解してください。意味のない検査で痛い思いをした子は、この先も親を恨み続けるかもしれません。

最後に診断について一言。家族内感染者、クラスが学級閉鎖の場合には、1～3日の潜伏期後に38～38.5℃の発熱があれば、90%以上の確率でインフルエンザと診断していいと考えています。これは発熱後6時間以上経過した迅速検査の感度と同等です。ある病院を発熱直後に受診して、検査陰性にもかかわらず抗インフルエンザ薬を処方された、と相談を受けました。陰性でも薬を出すなら、最初から検査の必要性はなかったはずと首をかしげてしまいます。痛い思いをさせてまで、検査料で儲けるのとの思いが頭をよぎります。医師は検査の必要性の有無を判断し、診断することが仕事なのです。

インフルエンザを侮ってはいけませんが、必ずしも重症の経過を辿るものではありません。ですから、症状の重さに注意しながら、慌てずに検査の陽性率が高くなる時期（発熱後6時間）を待ち受診しましょう。検査は苦痛をとまなうので、集団カゼの認識を持って臨床診断だけで充分であることを理解しましょう。

豊橋市育児情報誌「ママゴン：インフルエンザについて」（2018年1月号）も右のQRコードからダウンロードして読んでみて下さい。



2月のお知らせ

- ・東北大学医学部学生実習
9日(金)
よろしくお願ひします
- ・栄養育児相談
14、21日(水) 13:30～
栄養士担当 参加無料

読者の広場

先月は6通のメールをいただきました。相談事もありプライバシーに関わるものもあるので一部を紹介します。

青葉区の斎藤さんからのメールです。

「水曜、木曜と診察して頂いた齋藤〇〇の母です。おかげさまで、昨日からは平熱ですっかり元気になりました。お兄ちゃんは、咳こみが多くなってきたので頂いた薬を服用しています。2日連続の受診でも、いやな顔をされず、翌日にも電話で体調を確認して貰い、本当にかかりつけ医の有り難みを感じました。年末にかわむらこどもクリニックがお休みだったので、別の病院を受診しましたが、先生は「こんなに軽い症状でなぜ来たんだ」と言う感じが話し方に出ていましたし、インフルエンザの可能性が高いと言ったのにモカかわらず風邪薬と一緒に抗生物質が処方されたのも、何となく不信感がありました。かわむらこどもクリニックは、お兄ちゃんの2ヶ月検診の時から（その時モカ前日に市から派遣された保健師さんにミルクを飲ませすぎだと厳重注意を受けて、落ち込んでいましたが、先生に「母乳の子だって、好きなだけ飲んでるんだから、ミルクだって、たくさん飲ませて大丈夫」と言われて、本当に気持ちが楽になりました）、お世話になっていますが、先生も看護師さん達もアットホームな雰囲気、緊張せずに受診できる唯一の病院です。まだまだ、二人ともお世話になると思いますし、私自身も（婦人科などでなければ）受診して良いと先生におっしゃって頂いたので、今後もよろしくお願い致します。〇〇の回復と、お礼を伝えたくてメールしました。本当にありがとうございました。」

子どもの状態が回復したと医師に報告し、お礼のメールを出すことはめったにないでしょう。せいぜい、次回受診の時に礼を言えば済むことです。それをわざわざメールで送ってくれるクリニックと患者さんの開かれた関係、本当に嬉しいことです。

次は青葉区の匿名さんからの、実家に帰った時のエピソードの報告です。

「いつもお世話になっています。小〇隼〇、志〇の母です。長文失礼します。先日の連休中（6日）に仙台から新潟（私の実家）に帰省する道中午前11:00頃、隼〇が熱性けいれんを起こしました。一歳半の時にも起こしています。急遽、山形市立済生館病院を受診して下熱の座薬と飲み薬を出してもらいました（鼻水咳痰がまだ続いていたので）。熱は40度ありました。座薬で一旦熱が下がって少し元気になったのですが、新潟の実家に着いて横になって寝ていた時に2回目の熱性けいれんを起こしました。午後9時頃です。いずれも30秒ほどでおさまりました。急患センターに電話して、市民病院を受診することになり、受診したところ2度熱性けいれんを起こしているの、複雑型熱性けいれんだと言われました。熱がなかなか下がらず、また、けいれんが起きると怖いので入院することになりました。8日にやっと熱が下がったので、退院になりました。今は、36度台で熱はなく食欲もあります。咳があり、鼻声ではありますが元気です。9日に仙台に戻ってきています。新潟市民病院の小児科の先生からのお手紙もあるので、近いうちに受診したいと思います。よろしくお願い致します。」

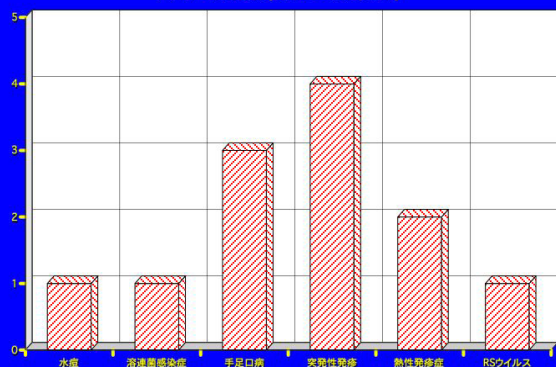
帰省途中で痙攣を起こし病院を受診し、さらには実家に着いてまた痙攣を起こし入院したことで、とても不安が強かったと思います。このメールも同じで、伝えなくてもいいことを伝えてくれる。そんなクリニックと患者さんの関係、ありがたいことです。人に何かをするということは、多くは利害が関係する場合があります。今回の二つの相談は利害が関係しないメールです。なんとでも回答を求めものではなく、たんに報告ということに大きな意味があります。今回もまた、素晴らしい患者さんに支えられていることが実感できました。本当にありがとう。

続いては青葉区の磯部さんからクリスマス会の写真に関するメールです。

「先生、スタッフの皆様へ寒い日が続いていますが、お元気で過ごして下さるか？クリスマス会の写真、ありがとうございました。皆様のおかげで、楽しい時間を過ごすことができ、仙台での思い出がまた一つ増えました。帰省していたので、お礼が遅くなってすみません。今年もどうぞよろしくお願いいたします。」

思い出が増えてよかったですね。何より遅くなくてもお礼をいただけたことが、嬉しい事です。

1月の感染症の集計



インフルエンザが大流行で、今までない大きな流行になっています。今年は異常にB型が多いのが特徴です。どうして大流行しているかはわかりません。先月は158人でしたが、下旬からはさらに増加して、この先はさらに拡大が広がる気配です。インフルエンザの流行情報に関しては、毎週全国と仙台市の情報を提供しています。右のF.B. ページで確認して下さい。例年インフルエンザが流行すると、他の感染症が目立たなくなります。今年も同じような状況です。

Mail News, Facebook の紹介

Mail News は600人を越えるお母さんが登録し利用しています。件名を「登録希望」とし、登録者の名前とお子さんの名前を記載し送信してください。下のQRコードから是非登録をお願いします。

その他の情報発信としてFacebook ページ、YouTube にも取り組んでいます。最新情報はFBをどうぞ。Mail Newsが、かなり戻ってきます。届かない場合はkodomo-clinic.or.jpをドメイン指定して下さい。不明な点は受付まで問い合わせ下さい。



MailNews



Facebook

編集後記

インフルエンザが大流行です。クリニックではできるだけ痛みを伴う検査をしたくないの、その分説明に時間がかかります。有無を言わず、鼻に突っ込んでグリグリする。よっぽど、その方が楽ですが、なかなかそうは行きません。泣き騒ぐ姿や、次来た時に鼻を抑える仕草を見ると可哀想になります。まるで他人事のように検査して下さいという親を見ていると、子どもの未来が心配になります。本当に疲れます。



K's clinic

麻疹風疹ゼロ作戦キャンペーン 『1才のお誕生日に麻しん風しん混合ワクチンを』
『お母さんクラブ』現在会員を募集中です。参加希望は受付まで。！！